

学校の教育目標:いのちきらめく小原っ子の育成～「身につける」「つなぐ・ふり返る」「挑戦する」～

学校の教育目標 実現のための 喫緊の課題を 踏まえた 重点目標	重点目標に係る 目指すべき子どもの 姿となる 達成指標	達成指標を達成する または近づくための 重点的取組 ※到達不要	重点的取組に係る 具体的な 取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	担当	達成指標に対する 達成状況の確認		改善方策	関係者 評価 ○/4点	意見等					
					自己 評価	達成状況(エビデンス)								
確かな学力の育成	国東市調査において、全ての調査学年、調査教科において全国平均クリア。 平成30年度 1年生:国語+6 算数+6.5 2年生:国語-8.7 算数-1.2 3年生:国語+3 算数+3.2 4年生:国語+16.3 算数+13.2 理科+19 5年生:国語+10.7 算数8.7 理科+10 6年生:国語+4.7 算数+5.4 理科+11.1 【学期ごとの参考指標】 国語・算数の単元テストで達成目標値をクリアする割合を全学年80%以上にする。 【1学期の参考指標】 1年:国 89.2% 算 98.4% 2年:国 95.2%(+1.2)算 95.5%(±0) 3年:国 74.4%(+15.4)算 87.0%(+28.0) 4年:国 81.2%(+18.2)算 79.3%(-10.7) 5年:国 97.2%(+1.2)算 93.7%(+6.7) 6年:国 88.9%(-4.0)算 95.0%(±0) 平成30年度 1年:国 89.8% 算 95.8% 2年:国 75.2% 算 80.9% 3年:国 66.3% 算 87.4% 4年:国 91.5% 算 89.1% 5年:国 84.0% 算 79.7% 6年:国 94.9% 算 87.5%	学校 学習のめあて(課題)と学習の振り返り(まとめ)を設定する。 考えを比べ、判断するための場を設定する。 反復学習(読み・書き・計算)を徹底する。 子どもと一緒に学習する時間をつくる。 地域 学びの教室・参観日への参加を通して積極的に学習支援を行う。	○毎時間、ねらいが明確なめあて(課題)の提示と2単位時間に1回の振り返りの実施。 (振り返り(まとめ)と次時のめあて(課題)の連続性) ○全ての学級で、課題提示後、指導者の「30秒サイレンス」で「ドントリボイス」で子どもの思考を促す。 ○全ての学級で、毎時間、問題解決につながるキーワードや考え方を板書に位置づける。 <思考を促したり整理したりする発問・板書> ○全ての学級で、毎日、「小原っ子生活の手引き」にそった学習に取り組ませる。 ○保護者が、学期に2回の家庭学習強化週間で、宿題のコメントを書く。 地域の方や保護者が、 ①読み聞かせを実施する。(毎週水曜日) ②学びの教室指導を実施する。(年間40回以上) ③ゲストティーチャーとして支援する。(年間を通じて全学級で) ・学校公開日に積極的に参加する。	教務主任を中心としたチームA	A	【2学期の参考指標】 国語・算数の単元テストで達成目標値をクリアする割合を全学年80%以上にする。 1年:国 90.0% 算 93.0% 2年:国 95.6%(+12.6)算 94.8%(+0.8) 3年:国 84.5%(-2.5)算 90.4%(+8.4) 4年:国 87.7%(+24.7)算 81.2%(-2.8) 5年:国 94.0%(+17.0)算 95.0%(+11.0) 6年:国 93.3%(+20.3)算 95.9%(+22.9) ()は経年比較 【2学期の考察より】 ○自分の発表や説明が終わったり関心が薄かったりした場合に、聞くことの集中が続かなくなる子もいる。 ●最後まで聞いていなくて、指示が入らないことがある。「先生、何をするの?」と聞いてくる。 ●家庭学習を途中までしかやらないまま提出したり、よく読まずに答えたりしている。見直しが定着せず、ケアレスミスが多い。 ●子ども同士での話し合いが成立するまでには至っていない。 ●学習を自分から進んで…という点では、ほとんどできていない。(自学でしてくるようになるまで) ●計算や漢字の復習の仕方を教えても、宿題+自分で反復学習をしなくていい。 ●進んで発表する子とそうでない子の2極化。 ●予定になかった場面で、感想もふり返りも言えないことが多い。 ●わからないところを、自分の力で粘って考えようせず、友だちや教師に頼りがちな子もいる。 ↓ 【改善点】 ○授業の「はじまり」から「終わり」までをもっと意識させること。 1. 学習用具を準備する、気持ちを整えるなどの授業のスタートの意識 ○学習で大切だと思ふところなどを押さえた振り返りが書けたりできるようになってきている。 ○自分のことだけでなく、友だちのことも含めてふり返れることがあった。 ○チャイムが鳴っても最後まで学習をやり続けようとする子がいる。	4.0 ○人の話をよく聞こうとする姿勢を育てていきたいとありがたく感じている。 ○子どもたちの自主性の育ちに感謝のみ。 ○国語、算数の平均結果も他に比べて大きく上回り優秀だと思う。少人数にもかかわらず、せんせいに感謝するのみ。 ○少ない数の子どもにたいしての授業なので、充分、指導が出来ており、学力面は問題なしと思う。「先生との授業時間が楽しい」と感じるのがまず一番だと思う。 ○授業で、事前の準備が行き届き、子どもの個性に応じた指導がなされていた。 ○先生、保護者が一体となって取り組んでいる様子がうかがえる。 ○目標を十分に達成できている。 ◆集中力を育てるのは、家庭でも難しいと感じている。							
								小原っ子アンケートで下記の項目の評価平均値を3.8以上にする。 ①乱暴な言葉を使ったり、人の悪口を言ったりしていない。 平成30年度年間平均3.71 ②進んで挨拶をしている。 平成30年度年間平均3.82	学校 相手意識をもち、「ひと」「もの」「こと」をふり返り、つなぐことができる子どもを育てる。 素直さと思いやりを大切に育てる。 家庭 小原っ子マナーモードをもとにインターネットやゲームのきまりを守る。 地域 「気づき」「一声」で子どもを見守る。	【児童会活動を中心に】児童会担当や学級担任が、 ①なかよし集会で学級単位でのあいさつを実施する。 ②月1回、なかよし集会で「ほんわかハート」の紹介をする。 ③全校児童が学期に1回以上発言するために、学校行事やなかよし集会で感想発表の場を持つ。 ④なかよし集会で、たてわり班を活用し、月1回の振り返り活動と学期に2回の「ほんわか交流」を実施する。 【学級経営を中心に】学級担任が、 ①「小原っ子生活の手引き」にそった話し方を日常的に指導する。 ②学期に1回以上、学校行事やなかよし集会で発表できるようにする。 ○全教職員が、月1回、小原小「あったか・ほっと・にっこりアンケート」を実施し、子どもの実態把握と個別支援を実施する。 ○全教職員が、日常的に、子どもとあいさつをかわし、子どもをほめる。 ○保護者が、ゲーム・テレビ(YouTubu含む)の時間について親子で話し合い、きまりをつくって守らせる。 地域の方が、 ①出会った時に挨拶や声かけ(褒める・注意する)をする。 ②地域行事への参加を呼びかける。	生活指導主任を中心としたチームB	A	【豊かな心の育成達成指標】 小原っ子アンケートで下記の項目の評価平均値を3.8以上にする。 ()は1学期の数値 【2学期 児童アンケートより】 ①乱暴な言葉を使ったり、人の悪口を言ったりしていない。 3.8/4点 (3.8) ②自分から挨拶をしている。 3.8/4点 (3.7) 【2学期の考察より】 ○声かけしなくても5分前には集合しているなど、自発的な姿が見られる。 ○自分からあいさつしようとする子が増えた。 ○上級生がいつも真剣に取り組んでいるので、1年生もらんならタイムを真剣に頑張っている。 ○前は、ほんわかカードにかくことを見つけた。 ○全校のよいところに目が向く子もでてきた。 ○ほめるとまたがんばろうという子どもの姿が見える。 ○教科の授業の時間の中で「お友だちのよいところを見つけて」と投げかけると、たくさんよいところをみつけて発表する。 ○授業中の友だちのがんばりを認めて、自然に「すごいなあ」という言葉かけや拍手が出ることもある。 【2学期の考察より】 ●友だちの良さを素直に認められず、余計なひと言を言ってしまうことがある。 ●子ども一人ひとりの中で、「お友だちにほめられた」という体験が記憶として残っていない。 (○)調査で「クラスの人からすごいと言われることがありますか」で「全くない」と答える) ●ほんわかカードには声をかけないと書かない。 ●予定になかった場面で、感想もふり返りも言えないことが多い。 ↓ ○自発的、自治的態度の育成 ・なかよし集会の内容を改善し、全校による話し合い活動を行う。 全校話し合い活動=仮称「小原っ子タイム」 ・縦割りの班による異学年集団を活用し、テーマにそって考える場と時間を月に1回をめやすに実施する。	3.9 ○あいさつについて、子どもたちが積極的にできていると思う。 ○子どもたちの動きが生き生きしているのが、意欲的であることがわかる。 ○生きていく全場面に目配りし、それぞれの場面で具体的な指導の手立てにそって、指導の徹底をはかっている。子どもの生き生きとしているわけと考える。 ○先生、保護者が頑張っているのを見て、地域住民も生徒や学校にもっと関心をもち、かかわっていききたいと思う。 ○目標を十分に達成できている。